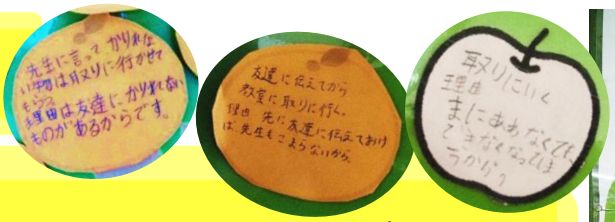
十二月田小学校

自己指導能力の向上を目指して！

本校では令和６年度から、「自己指導能力の育成」を目指し、校内研修を行っています。
「自己指導能力」とは「児童がその時、その場でどのような行動が適切であるか自分で考えて、決めて、実行する能力」と定義されています。適切な行動を選択するための基盤として道徳教育での学びや気付きも大切だと考え、研究を深めています。

どうする木



発達段階に合わせて「自分だったらどんな行動を取るか」考え、
「どうする木」に掲示します。７月のテーマは…

低学年：ろうかをしずかにあるけている？
中学年：忘れ物をしないと、どんないいことがある？
高学年：移動教室で向かっている途中に忘れ物に気づいた。もどったら授業に遅れてしまう。どうする？

さすが高学年！　様々な考えや行動があります。さあ、自分ならどうする？

教師のための掲示物

道徳科の研究授業の様子を一枚にまとめて掲示しています。

各学年の道徳コーナー

自己指導能力の育成に関係が深いと考えられる題材を選び、板書と児童のノートを掲示しています。発問内容が異なれば児童の気づきも全く違うものになります。道徳の楽しさが感じられます。

道徳科の授業を通して学んだことを、児童も教師も振り返れるようにしています。
掲示物の前で足を止めた児童や教師が、改めて題材や指導を振り返り、
さらなる気付きや授業力の向上につながればと思っています。